

天使幼稚園

子育てと幼児教育

令和4年11月発行

今回のテーマ

子どもにとっての公園遊び

日々悩みながら子育てをしていると思います。子どもを叱ることで成長を促しているとき、私たち大人も成長しています。子どもも大人も一つ一つ経験を重ねて、子どもを育んでいけるようになります。

家事に育児に忙しくなった時など、ついつい大声で子どもを怒ってしまう、誰もが経験することではないでしょうか。しかし、「怒る」とは感情の爆発で、有益な事ではありません。それに対して「叱る」とは教育的な意味を持つ行為です。子どもに対しては怒るばかりではなく、叱ることによって成長させることが望ましいと言われます。

ですが叱る場面というのはそれほど多くはありません。

制作：学校法人豊山学園 天使幼稚園

〒480-0202 愛知県西春日井郡豊山町豊場字神戸 178-1

TEL (0568) 28-2089 / FAX (0568) 39-1500

なぜなら、「子どもが危険なことをするとき」や「ルールを守らなかったり人を傷つけるなどの非道徳的な行為をするとき」です。つまり、まだまだ未熟な子どもに対して、やってはいけないことは絶対に二度としないようにと教えるために、時として厳しく叱ります。

叱るときのポイント

叱るときは、その場で叱ることが基本です。時間が経つと記憶は曖昧になり、後になってから叱られても、子どもは何について叱られているのか分からなくなってしまいます。また「やけどするよ、いたいよ」などと何がダメなのかを子どもの目を見て端的に伝えるようにします。大人と違って理由を並べても、全てを理解することが難しいからです。ですから子供にもわかる言葉で、シンプルに、しかし意味を持たせて伝えます。

また叱るときに重要なことの一つに、子どもの目を見て、また子どもにも自分を見るようにさせて叱ります。子どもの目を見ることは、子どもに真剣に伝えているという合図にもなります。同時に、どれほど子どもを心配しているかも相手に伝わります。

時には行動を起こして知らせる

口でいくら言ってもやめない場合もあります。そんな時は、親が強制的に終了させます。危険なことをするときやルールを守らないときは、いち早く子どもに止めさせなくてはなりません。そこで遊びをやめさせて帰るなどの行動に移すことも必要です。そうすることで、子どもは自分勝手な行為から望まない結果を招いたことを理解していきます。

叱った後のフォロー

叱った後のフォローも大切です。叱った後は優しい口調で「どうしてこんなことをしたのか？」を聞きます。子どもの行動には子どもなりの理由があったりしますので、理解できるところは同意し、間違っているところは指摘しましょう。

重要なのは「自分が認められている」と子どもが感じることです。叱るときは厳しくが基本ですが、最後は相手を認めてあげましょう。それが成長への近道となります。

子どもは間違いをします。親としても何が正解なのか